

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3890200334
法人名	医療法人やすらぎ会
事業所名	グループホームつどい
所在地	愛媛県今治市南大門町2丁目2番地2
自己評価作成日	平成28年1月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成28年2月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・おひとりおひとりの今までの歩みをたいせつにし、個々のご利用者にあった支援を心がけています。
 ・家庭的な雰囲気の中で自分らしく、より豊かに、ゆったりと暮らしていただけるように、優しく寄り添った介護に努めています。
 ・運営母体の病院と連携して入居者の万全な健康管理に努め、重度化した場合はご利用者・ご家族のご意向に従い、看取り介護を行っています。
 ・地域の方々とは、地方祭にはお神輿や子供たち、地域の人たちが来てくれたり、ボランティアによる民舞鑑賞会、お花の苗植えなど交流を大切にしている。つどい便りを地域の人にも送付し、事業所の生活状況を知っていただいている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設して2年目を迎える事業所は今治市中心街に立地し、近隣に四国霊場や幼稚園、市役所がある。建物の1階に小規模多機能型事業所があり、2階と3階がグループホームになっている。母体病院の長年にわたる医療活動を基盤として地域住民の信頼が厚く、町内会やボランティアを始めとする様々な人々の支援と交流がある。事業所は「一人ひとりの今までの歩みを大切にし、一人ひとりの『今』、『この時』に寄り添う」という理念を掲げ、利用者の生活歴をよく理解して個別ケアに努め、利用者の力を引き出して感謝の言葉を返すことを大切にしている。また、万全の医療体制のもと、家族の希望に応じて終末期ケアにも取り組み、すでに3名の利用者の看取りを行った経験を持っている。研修を奨励して人材育成に力を注ぎ、経験豊かな管理者を中心として真摯にサービスの向上を目指している事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームつどい

(ユニット名) 2階

記入者(管理者)
氏名 村上 東洋子

評価完了日 28年 1月 6日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 『一人ひとりの今までの歩みを大切に、一人ひとりの「今」「この時」に寄り添います。』の理念を玄関、居間に掲示。スタッフ全員が朝礼で唱和し、理念を共有している。利用者一人ひとりが歩んできた歴史を大切に、地域の中でその人らしく生活してゆけるよう支援している。</p> <p>(外部評価) 開設時に職員で話し合っで決めた理念には、利用者一人ひとりがたどってきた人生を深く理解してケアを行い、その人らしく暮らしてもらいたいという想いが込められており、利用者の能力を引出し、感謝の言葉を返すことを大切にしている。職員は理念を名札に入れて携帯し、共有して実践につなげるよう努めている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地方祭ではお神輿や子供たち、地域の人たちが来て下さり、子どもたちと楽しく交流。婦人会、民舞愛好会のボランティアの人たちが、年に数回民舞を披露して下さり、利用者も一緒に民謡を踊っています。地域の人がフジバカマの苗を持参、利用者と一緒に植え、フジバカマに来るアサギマダラという蝶の話をしてくれたり、自宅の庭に来たアサギマダラを利用者に見せに来てくれたり、地域と利用者が親しく交流している。つどい便りを地域の人にも送付し、事業所の生活状況を知っていただいている。</p> <p>(外部評価) 開設当初より地域住民の信頼が厚く、町内会やボランティアを始めとする様々な人々の支援と交流がある。野菜の差し入れ、亀、めだか、チューリップの球根、いもの苗の提供、菜園の掃除、花の植え付け、婦人会の舞踊披露やお茶会の開催、幼稚園児の訪問等日常的に交流している。利用者は、地方祭や近くにある四国霊場の行事に参加して楽しんでいる。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 事業所職員全員が「認知症サポーター養成講座」を受け認知症サポーターになり、玄関にステッカーを貼って、いついかなるときも、相談に応じている。地域の見守りネットワーク「いまからネット」に協力している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議は2ヶ月に1回、利用者・家族・民生委員・地区住民の代表者・市担当者の参加を得て開催している。利用状況・活動状況の報告を行い、意見交換では毎回、率直な意見が出席者からあり、熱く盛り上がります。防災問題、今後の活動、認知症の方に対する対応など、貴重なご意見をいただいている。事業所から管理者・計画作成担当者他、職員も順番で参加し、スタッフ全員に会議の報告と周知を徹底し、サービス向上に活かしている。	
			(外部評価) 運営推進会議は、利用者と家族、地域住民、民生委員、市職員の参加を得て2か月に1回開催している。会議では利用者の状況や活動報告を行なった後、参加者と活発な意見交換をしている。話し合いの結果、住民参加で避難訓練が実施されたり、地域の情報を得て、稚児行列を観覧するなど利用者に喜ばれている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 市担当者の運営推進会参加を得、事業所の方針や現場の実情を伝えたり、市職員から課題解決のための情報を示唆していただいている。介護保険関係で理解困難な場合は市の窓口を訪問し、話し合いをするなど、普段から連絡・相談がしやすい関係を築いている。	
			(外部評価) 運営推進会議に市職員の参加があり、事業所の状況を理解してもらっている。わからないことがあれば、市役所が近くにあるので向いて行って指導を受けることも多く、信頼関係を築いている。また、地域包括支援センターの協力を得て認知症サポーター養成講座を受講して、センターが実施している「見守りネットワーク」事業に協力している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 職員一同が「身体拘束は行わない」と共通認識を持ち、定期的ユニット会議で学習し、課題があれば話し合いをして、身体拘束をしないケアに努めている。三階建ての建物内は利用者がエレベーターを使って自由に移動している。施設が市街の中心地に有り交通が頻繁な交差点の角地のため、一步屋外に出ると危険がある。徘徊の利用者も入居しているので安全を優先し、やむを得ず施錠しているが、利用者が希望すれば必ず職員同行で外出している。	
			(外部評価) 身体拘束をしないケアを実践している。病院や他の施設から転居してきた利用者家族から4点柵の利用を申し出されたことがあるが、拘束にあたることを説明して理解してもらい使用しなかった。部屋は衝撃を吸収するクッションフロアになっている。職員は年1回研修を受け話し合いながら、言葉の拘束についても「とろとろに優しく」をスローガンに優しい言葉使いを心がけている。	

自己 評価	外部 評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 定期的ユニット会議で「虐待防止」について学習している。特に介護現場では身体的虐待だけでなく、叱る・無視・高圧的態度など心理的虐待の防止に重点を置いて、職員の自覚を促し、「とろとろに優しく」を事業所のスローガンとしている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 管理者・リーダーは介護支援専門員の研修等に参加し、権利擁護について学んでいる。現在のところ、制度を利用する対象者はいないが、今後、職員が研修等に参加の機会を設け、権利擁護や成年後見制度を学び、理解し、必要な時は利用者、ご家族を支援できるようにする。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 利用者やご家族に対し、契約内容の詳細を説明し、不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い、理解・納得を得られた上で契約を行っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 日々の生活の中で、利用者からの要望が、毎朝のミーティングで管理者及び職員に報告され直ちに話し合いをし、ケアに反映している。ご家族が来所時はホールと一緒に座り、一緒にお茶を飲み、普段の生活を見ていただき、ご意見ご要望等を伺い、ご家族のお気持ちを職員に周知させ、運営に活かしている。遠方のご家族には、電話連絡にて利用者の様子を伝え、つどい便りを全家族に送付している。 (外部評価) 家族が交代で運営推進会議に出席して、意見交換をしている。また、クリスマス会などの行事と合わせて家族会を開催して交流し、意見を出してもらう機会を作っている。2か月に1回事業所だよりを発行して全ての家族に送付し、利用者の日常の暮らしぶりを知らせている。遠方の家族には頻回に電話連絡をして状態を伝えている。	事業所は様々な機会を通して家族の意見を聞く努力をしてきたが、管理者はまだ十分ではないと感じている。家族会で家族が遠慮なく意見が述べられるような会運営の工夫や、職員で話し合っただ自のアンケート調査を実施するなど、さらに踏み込んだ取組みに期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月のユニット会議で、職員ひとりひとりが意見を述べる機会がある。管理者と職員は普段からケアの方向性がぶれないように話し合い、職員が代表者や管理者に意見や要望を伝えやすい環境とし、職員の声を運営に活かしてゆく様に努めている。 (外部評価) 朝夕の申し送り時に職員から意見や提案があると、ショートミーティングを行ってケアに反映させている。出された意見は申し送り簿に記載して情報を共有している。事業所は人材育成に力を入れており、研修を奨励して受講料や旅費を支給するほか、資格取得に必要な費用の助成制度を設けており、職員の意欲向上につながっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 個々の勤務状態を把握し、面談を行い、話しやすい状況を作っている。実績に応じて、研修参加の機会を設け、キャリアアップ、意欲の向上に努めている。希望休、生活状況に合わせた勤務シフトを取り入れ、安心して、持続して勤めることができ、やりがいのある職場作りに努力している。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 職員ひとりひとりのケアの力量と性格を把握し、働きながら、指導を受け、力量を向上出来る様にユニットのローテーションを組んでいる。新人にはマンツーマンの指導者を付け仕事の流れを理解させている。毎月1回所内での勉強会を行い、外部研修の積極的参加を促している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 今治市グループホーム交流会に参加し、研修会や勉強会等で同業者と情報交換し、サービスの質の向上につなげている。また相互訪問し、他事業所のいい点を取り入れ、また、自事業所の長所、短所を客観的に知ることが出来、サービスが広がるよい機会となった。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 初期段階でご家族より、利用者の今までの歩み、不安、要望等をよく聞き取り、職員は、ご本人の趣味嗜好や関心あるお話をするなど、多く関わりを持つようにしている。それにより、不安の軽減、安心感をもっていただくと同時に利用者が当ホームに入居して、どのような気持ちでいるのか理解し、思いやるように努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入所に至るまでのご家族の思いは様々です。ご本人が納得しないまま、入所させた不安感、介護からの開放感など、色々な感情をもたれているご家族を受け止め、今までの歩みを理解し、ご家族の気持ちに寄り添います。当ホームに入居させてよかったと安心していただけるように、ご家族との関係作りに努めています。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人・家族が必要としている支援を見極め、個々にあったサービスを提供してゆきたい。特に医療法人であることで、医学的管理も含め、当ホームを選ばれ、入居される方が多い。医学的安定が精神的安定につながるので、希望・同意される入居者には入居時、連携病院に現在の状況、病歴、服薬状況等情報を報告し、入居中の医療連携支援を行っている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 本人ができること・できないことを職員全体が周知、理解し、日々の生活でできることをしていただき、できたことに職員は感動し、感謝の気持ちを伝えている。やる気がなかった方が、できるようになった時は、共に喜び、支え合いの関係を維持する様に努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族に2ヶ月毎のつどい便りを送付して、近況をお伝えしている。面会に来られた時は、ご本人ご家族と一緒に話して、ご家族の事情や要望等を職員全体が周知するようにしている。所内の運動会・クリスマス会などには、必ずご案内状を送付し、参加を依頼し、参加のご家族さんも一緒にイベントに加わり、利用者・家族・職員がひとつになって、会を盛り上げている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 馴染みの面会者が来られたら、職員も利用者と一緒に歓迎し、ゆっくりくつろいでもらっている。その中で今まで知らなかった利用者の過去の出来事など伺って、だから今の状態があると、新しい発見となることもある。ある利用者は、今は息子の代になっている馴染みの会社に行きたくて落ち着きなくなる。ドライブがてら会社に連れて行き、息子と会ったら安心してホームに帰っている。 (外部評価) 入居時に、馴染みの人や場所について利用者や家族から情報を収集している。来訪した家族から戦争中の学童疎開やシベリア抑留体験を聞くこともある。知り得た情報をもとに、個別に外出支援を行い馴染みの場所を訪ね、利用者の安心や喜びにつなげている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 共有スペースで食事をし、お茶を飲み、テレビを見たり、お楽しみ会をしている。利用者は朝起きたら、ホールで過ごすのを楽しみにして、進んで居室から出て来ている。時々テーブルの席替えをして、利用者同士が楽しく交流できる様に配慮している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退所して自宅に帰る方はまだいなくて、ご家族、主治医らと話し合ひで、入院のため退所の場合があるが、必要に応じて相談支援してゆきたい。最後まで看取って、終了した事例では、安らかに逝ったことにご家族から満足と感謝の言葉をいただきました。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 一人の職員が知り得たり、感じた利用者の思いを職員全体が共有し、その思いに寄り添って対応している。例えば、職員に手を引いてとか、連れて行くと素直に言う利用者と、手を出すと「私はしっかりしています。」と立腹する利用者がある。後者の自立心を尊重し、見守るけど手を出さないで優しく寄り添う方針を職員全員が共有している。	
			(外部評価) 時にはさりげなくそばに座って話を聴くように心掛け、なるべく希望や意向を聞き取るよう努めている。拒否的、威圧的態度をとる利用者もその心の底に流れるものを推察し、気持ちを汲み取るよう努めている。ミーティング時にみんなで気づいたことを出し合ひ、多面的に利用者を理解できるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時に生活歴をお伺いし、今までの生活状況をご家族、親戚、また仲良しのご近所さんが来られた時にお聞きする等、情報把握に努め、安心して暮らせる生活環境作りに役立てている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) お一人おひとりの生活リズムを理解して対応する様に努めている。朝ゆっくり寝ている習慣の利用者には、無理に起こして、全員で朝食をとらなくても、身についたリズムで生活していただいている。料理の好きな利用者には食材切りや、味見をお願いしたり、畑仕事の好きな人には、畝作りを一緒にして役立つ喜びを感じていただいている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 毎月のミーティングに事例検討を行い、気づきの伝達、状況の共有を行っている。また毎朝のショートミーティングで、必要に応じ事例を挙げご本人、ご家族の意向を職員全体が把握し、介護計画に反映する様にしている。少なくとも3ヶ月に1度は個別のモニタリングを行っている。	
			(外部評価) 計画作成担当者が利用者や家族の意向を確認した上で介護計画を作成している。毎月事例検討を行い、介護計画が現状に即したのものになっているか検討をしている。また、3か月に1回モニタリングを行い、介護計画の見直しを行っている。計画書は家族が面会に訪れた際に説明をして交付し、遠方に住む家族には電話で説明して郵送している。	利用者の望む生活を実現するために、利用者一人ひとりのケア目標を認識し、職員が共有して実践することが求められている。日々、ケア目標を意識しながらケアが行えるよう、他事業所で実施されている方法を情報収集するなどして、事業所独自の方法について検討することを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 生活記録には日常生活の様子が分かる様に、利用者の話し言葉を入れ具体的記録をしている。個人記録表は1日のバイタル、食事、清潔、排せつ、服薬等すべてが把握できるようにしている。全員が出勤時必ず読むことになっている申し送りノートには、介護及び業務上の気づき、提案、決定事項等、伝達すべき情報を記録し、職員が周知し実践に反映している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 「今」「この時」に寄り添うとの理念のもと、生活全般のニーズに応じる様にしている。連携病院受診・検査に同行、自宅や馴染みの場所に行きたい希望に応じたり、福祉用具の購入の相談、地域の美容院による訪問カットや職員が爪マニキュアを施して、おしゃれ心を刺激したりしている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域ボランティア活動を受け入れ、地域の人達からいただいたチューリップの球根やさつまいも苗と一緒に植え、利用者が収穫したさつまいもやゆずを運営推進会議の地区住民代表者におすそ分けし、味わっていただいた。防災訓練では地区住民も参加していただき、利用者と一緒に避難の方法など話し合った。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 入居時に医療に対するご意向を伺って要望に添って対応して いる。利用者と家族の同意のもと、医療連携病院に毎朝利用 者の具体的な体調をFAXにて報告。主治医が利用者の体調に 応じて、ほぼ毎日様子を見に来てくれている。歯科は訪問診 療も利用している。他科受診の必要があるときは家族が付き 添っている。 (外部評価) ほとんどの利用者が協力医をかかりつけ医としている。職員 は、毎朝利用者の状態を協力医にFAXして状態を伝えてい る。協力医は毎日来訪するため、利用者や家族のみでなく、 職員にとっても安心である。また、月1回、歯科医による訪 問診療を受けることができる。他科受診については家族に付 き添いを依頼し、情報を共有しながら治療を継続している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 日常生活で、利用者の細やかな異常に介護者が気づいた時 は、看護職員または管理者（看護師）に報告し、主治医や家 族と相談しながら対応している。介護と医療の連携体制が構 築されており、連携病院から主治医の指示のもと、看護師が 処置の指導や体調チェックにも来ている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院にした際は、管理者が入院時情報提供書を病院に提出し ている。入院中は医療関係者、ご家族と相談・連絡を取り合 い、退院時は医療機関よりサマリーをいただき、退院後の介 護の指針にしている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入居時に本人と家族に重度化した場合における対応、医療連 携体制を実施していること、本人、家族の意向に添うことを 説明し、同意を得ている。当事業所は医師の説明を受けた本 人、家族からの希望に添って看取り介護を行っている。職員 全体に所内で看取りに関する、研修を繰り返し行い、看護師 による終末期ケアの指導を行っている。グループホーム交流 会で、他の事業所の看取りの事例も勉強し、どのような事例 にも対応できるよう医療との連携を心がけている。 (外部評価) 看取り指針を作成し、家族の希望に応じて看取りを行う方針 である。開設よりすでに3名の利用者の看取りを行ってい る。職員として配置されている看護師4名と協力医の24時 間緊急時医療体制があり、利用者や家族の安心に繋がってい る。現在終末期ケアを行っている利用者は毎日家族が訪れ、 職員と協力して手をつくした介護をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 利用者の急変や事故発生時に備え、定期的ミーティングで学習し、不安や疑問など発表し意見交換をしている。また当事業所の「緊急時対応手順」を作成し、スタッフルームに掲示して、職員に周知徹底している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回防災訓練を実施している。防災チェックリストを作成し職員が日頃から防災意識を持ち、いざと言うとき対処できるようにチェックリストに基づき体験し、備蓄品を確認し、気づきや意見を出し合っている。4月・9月の防災訓練には地域住民の方々も参加し、利用者を避難させる方法や地域の人たちの避難場所としての受け入れの用意もあることも確認した。次回4月の防災訓練は夜間想定での訓練を行うことを、地域との話し合いで決めた。 (外部評価) 事業所の建物は、災害発生時に非常扉のロックが自動解除される構造になっている。職員全員が防災チェックリストを活用して避難の手順や備品の保管場所、防災設備の確認をしている。年2回小規模多機能型事業所と合同で避難訓練を実施しており、近隣住民が参加して訓練を行うことができた。事業所を一時避難所として活用してもらうよう申し出ており、備蓄食料も余分に用意している。	防災チェックリストの作成と実施、備蓄品の整備と管理、地域住民参加で避難訓練を実施する等、短期間で優れた実践がされていることは評価できる。さらに充実した災害対策が構築できるよう、避難訓練に消防署立ち会いを求めたり、夜間想定での訓練の実施、緊急連絡網の試験的实施、災害時地域住民と具体的な協力内容について話し合う等の取組みに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 居室はすべて個室であり、入浴も個人浴でプライバシーを損ねない様に対応している。また明るい笑顔と利用者にあったトーンの声かけを行い、お一人おひとりを尊重して接する様に心がけている。 (外部評価) 「とろとろに優しく」をスローガンに一人ひとりの人格を尊重した声かけを行うよう努めている。家族が面会に訪れた際は居室でゆっくり話ができるよう椅子等の準備をしている。入浴は一人ずつ入り、同性介助を希望する利用者には勤務を調整して希望に応じている。トイレにはコールが取り付けられており、排泄後知らせてもらうよう配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 食べものや飲み物には選択の幅を持たせ、おやつは数種類から好みの者をとってもらい、飲み物をご希望を聞いて提供している。レクレーション、作業、外出など強制しないで、自己決定できるように働きかけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) タイムスケジュールを重視しないで、ご利用者に添って起床、朝食、入浴時間等を合わせ、日頃から業務中心でなく、利用者中心の生活を支援する様に心がけている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 職員が利用者の服装やおしゃれに関心を持ち、服装が変わったり、散髪などしてヘアスタイルが変わったりすると、その都度、感動的に感想を言うことで、利用者の身だしなみの意識が高まり、気軽に職員に服装やおしゃれの相談をしている。利用者が職員の髪型や服装にも興味を持ち、おしゃれの話題で盛り上がることもある。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) オープンキッチンとなっているため、利用者の目の前で調理している。利用者は気軽に野菜切り、皮むきなど手伝ってくれたり、味見をしてもらったりしている。またテーブルに鉄板を出して、焼きそば、お好み焼き、バーベキューなど利用者が参加して調理する食事が好評です。おしゃれな箸置き、食器、コーヒーカップなどで優雅に食事を楽しむ雰囲気作りも心がけている。	
			(外部評価) 栄養士が献立を立て、管理者と理事長が確認して、適宜変更している。各ユニットで調理をしており、豆の皮むき等野菜の下ごしらえを利用者と一緒に行うこともある。誕生日にはショートケーキでお祝いしている。普通食が食べられない利用者には、料理を見てもらった後で食事形態を変えるようにして食事を楽しんでもらうよう配慮している。また、食事時は車いすから椅子に移って食べられるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 主に栄養士が栄養バランスを考えた献立をたて、職員が食事の摂取量は毎食チェック、記録している。水分摂取は三回の食事と10:00、15:00、入浴後、運動後、外出から帰った時、夜間は居室にお茶を用意しておくなど、一人ひとりの摂取状況に配慮している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 食事前には職員の指導の下で事前にお茶を1口飲み、口腔体操を行って、唾液の分泌を促している。利用者の習慣となっているが、毎食後、個別に口腔清潔に誘導し、必要に応じたケアを行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価) 生活記録に排泄チェック表を記載し排せつ状態を把握している。原則としてトイレで排泄する様に誘導している。車いすの利用者は本人の希望により夜間はポータブルトイレを使用することもある。声かけしてトイレ誘導しているが、尿意から排せつまで間に合わないこともあり、パット、リハパンを使うことがある。現在オムツ使用の利用者はいない。</p> <p>(外部評価) 各ユニット2か所にトイレがある。いずれも車いす対応になっており、跳ね上げ式手摺や前方ボードを設置して安全に排泄ができる設備になっている。利用者一人ひとりの排泄パターンを把握して声かけをし、トイレで排泄ができるよう支援している。排便後の紙パンツは新聞紙に包みその都度清潔に処理されている。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価) 朝食には毎回牛乳またはヨーグルトを飲んでいただき、午前中に体操をして体を動かすことにより自然排便を促している。個々の排便状態を観察、記録し、便秘が続く場合は連携の主治医と相談し、緩下剤服用することもあるが、職員が状態観察して服用支援をしている。利用者全員の排便状態を朝夕の申し送り、報告し、全職員が把握している。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価) 毎日入浴の準備をしている。基本的に週2回のスケジュールを組んでいるが、ご利用者の気分により、曜日を変更したり、回数を増やすなど柔軟に対応している。秋冬には、ご利用者と一緒収穫したゆずでゆず湯を楽しんでいただいている。</p> <p>(外部評価) 和式浴槽はスライドできるようになっており、左右に移動可能な構造になっている。利用者の身体状況にあわせて位置を変え、福祉用具と合わせて安全に浴槽に入れるよう工夫されている。一般浴槽での入浴が困難な利用者は、小規模多機能型事業所の特別浴槽で入浴することができる。また、現在終末期ケアを行っている利用者はリクライニング車いすで浴室に移動し、湯船で足浴を行って喜ばれている。週2回入浴を基本とし、入浴の苦手な利用者には声かけを工夫したり、時間や日を変えて入浴できるよう支援している。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価) 朝ゆっくり寝るのが習慣の方には無理に起こさないで、その方のペースに合わせている。昼寝の習慣の方、体調不良時など居室でゆっくり休める様に支援している。就寝時間も利用者の生活習慣にできるだけ合わせる様に心がけている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬は看護師が管理し、1日分の投薬箱に朝、昼、夕、就寝前に仕分けし、職員が服薬支援を行っている。病院から各利用者の投薬内容記録をいただき、薬の目的、副作用、用法、変更等職員全員が把握でき、服薬状況を個人記録に記録している。状態の経過や変化は毎朝、連携主治医にFAXで報告して、医療的対応を受けている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 利用者の生活歴により違っている利用者の興味を職員が理解し、花壇作り、畑作り、調理、踊り、歌など個々の利用者の関心事や趣味を楽しめる様に支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 全員で季節のお花見や紅葉狩りに出かけている。日常では少人数で散歩、食材の買い物に同行、帰宅願望の利用者と育った家を見に行く。昔働いていた会社をみたいと言う利用者や会社を見に行く。など個々に対応している。またご家族と一緒に外出、外食した時は楽しくて、満足気な表情で帰って来られる。 (外部評価) 近くに四国霊場があり、数人で散歩に出掛けたり、季節毎の花見を楽しむため鈍川温泉や糸山公園へドライブに出かけている。遠出をする際は必ず母体病院に行先を連絡して緊急事態に備えている。また、利用者が経営していた会社や職場に個別に出かけたこともある。今後、少人数で外食に行くことを検討している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 入所時面談で、物盗られ妄想、財布がないと騒ぐ、預金通帳に異常に執着があり銀行を巻き込む等々のご家族からのお話もあり、個人的にはお金を所持していません。お買い物ツアーでは、施設が立て替え、ご本人が支払いをして、買い物気分を実感していただいている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 親族や知人と電話で話したいときは、施設の携帯電話で居室内で通話する様に支援している。利用者のご家族の希望で自分の携帯電話を持っている方もいる。また希望により手紙が出せるような支援もしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 3階建ての施設の中を利用者はエレベーターを使って、自由に移動できる。共用の空間は空調、温度管理、採光に考慮し、オープンキッチンでは調理の音や匂いを感じ参加もできる。居間の道路側は透明ガラス張り、中からは交差点、街路樹、人や車の動きを見ることができ、外からは地域の人たちに中の七夕飾りやクリスマスツリーを楽しんでいただいている。</p> <p>(外部評価) 建物内は掃除が行き届き、清潔である。感染症対策として毎日消毒を行っている。リビングはオープンキッチンと食卓やソファがあり、利用者が集う場所となっている。窓は足元までガラス張りになっているため、日差しがふんだんに差し込んで明るく、通りの景色を望むことができる。庭に菜園があり、チューリップの球根が植えられている。季節毎にさつまいもや夏野菜を植えて収穫したり、めだかや蝶を育てるのも利用者の楽しみになっている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) ソファを自由に移動して、寝転がることもできる。気の合った利用者同士が食堂以外でも、テーブルを囲めるように居間にも置いている。共用空間の全ての家具は状況に応じて、気軽に移動できる様にしている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 居室は日照、採光、換気等及び防災に配慮している。ベッド、タンス、テーブル、椅子、ナースコール、洗面台を備え付けている。ご本人の好みの家具や置物を持ち込み自由となっている。但し、地震等防災のため、背の高い家具の持ち込みは遠慮してもらっている。</p> <p>(外部評価) 居室は広く、洗面台、エアコン、電動ベッド、チェスト、テーブルと椅子が備え付けられ寝具も提供されている。利用者はそれぞれテレビや整理ダンス等を持ち込んで思い思いに配置している。全室が南側道路に面しており、明るく外の景観を楽しむことができる。窓辺に家族写真をたくさん飾っている部屋もある。居室入り口に暖簾をかけたり折鶴等を飾って、部屋を間違えないよう工夫している。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 事業所全体を日照、通風に配慮し、バリアフリー構造にし、利用者の安全に考慮している。可能な限り自立して移動できるように廊下、トイレ、浴室等に手すりを設置している。手洗い設備、手指消毒液等感染予防に必要な設備を設けている。</p>	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3890200334
法人名	医療法人やすらぎ会
事業所名	グループホームつどい
所在地	愛媛県今治市南大門町2丁目2番地2
自己評価作成日	平成28年1月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・おひとりおひとりの今までの歩みをたいせつにし、個々のご利用者に合った支援を心がけています。
 ・家庭的な雰囲気の中で自分らしく、より豊かに、ゆったりと暮らしていただけるように、優しく寄り添った介護に努めています。
 ・運営母体の病院と連携して入居者の万全な健康管理に努め、重度化した場合はご利用者・ご家族のご意向に従い、看取り介護を行っています。
 ・地域の方々とは、地方祭にはお神輿や子供たち、地域の人たちが来てくれたり、ボランティアによる民舞鑑賞会、お花の苗植えなど交流を大切にしている。つどい便りを地域の人にも送付し、事業所の生活状況を知っていただいている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成28年2月15日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設して2年目を迎える事業所は今治市中心街に立地し、近隣に四国霊場や幼稚園、市役所がある。建物の1階に小規模多機能型事業所があり、2階と3階がグループホームになっている。母体病院の長年にわたる医療活動を基盤として地域住民の信頼が厚く、町内会やボランティアを始めとする様々な人々の支援と交流がある。事業所は「一人ひとりの今までの歩みを大切にし、一人ひとりの『今』、『この時』に寄り添う」という理念を掲げ、利用者の生活歴をよく理解して個別ケアに努め、利用者の力を引き出して感謝の言葉を返すことを大切にしている。また、万全の医療体制のもと、家族の希望に応じて終末期ケアにも取り組み、すでに3名の利用者の看取りを行った経験を持っている。研修を奨励して人材育成に力を注ぎ、経験豊かな管理者を中心として真摯にサービスの向上を目指している事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームつどい

(ユニット名) 3 階

記入者(管理者)
氏 名 村上 東洋子

評価完了日 28 年 1 月 6 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 『一人ひとりの今までの歩みを大切にし、一人ひとりの「今」「この時」に寄り添います。』の理念を玄関、居間に掲示。スタッフ全員が朝礼で唱和し、理念を共有している。利用者一人ひとりが地域にとけ込み、その人らしく生活してゆけるよう支援している。</p> <p>(外部評価) 開設時に職員で話し合っで決めた理念には、利用者一人ひとりがたどってきた人生を深く理解してケアを行い、その人らしく暮らしてもらいたいという想いが込められており、利用者の能力を引出し、感謝の言葉を返すことを大切にしている。職員は理念を名札に入れて携帯し、共有して実践につなげるよう努めている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地方祭ではお神輿や子供たち、地域の人たちが来て下さり、子どもたちと楽しく交流。婦人会、民舞愛好会のボランティアの人たちが、年に数回民舞を披露して下さり、利用者も一緒に民謡を踊っています。地域の人がフジバカマの苗を持参、利用者と一緒に植え、フジバカマに来るアサギマダラという蝶の話をしてくれたり、自宅の庭に来たアサギマダラを利用者に見せに来てくれたり、地域と利用者が親しく交流している。つどい便りを地域の人にも送付し、事業所の生活状況を知っていただいている。</p> <p>(外部評価) 開設当初より地域住民の信頼が厚く、町内会やボランティアを始めとする様々な人々の支援と交流がある。野菜の差し入れ、亀、めだか、チューリップの球根、いもの苗の提供、菜園の掃除、花の植え付け、婦人会の舞踊披露やお茶会の開催、幼稚園児の訪問等日常的に交流している。利用者は、地方祭や近くにある四国霊場の行事に参加して楽しんでいる。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 事業所職員全員が「認知症サポーター養成講座」を受け認知症サポーターになり、玄関にステッカーを貼って、いついかなるときも、相談に応じている。地域の見守りネットワーク「いまからネット」に協力している。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議は2ヶ月に1回、利用者・家族・民生委員・地区住民の代表者・市担当者の参加を得て開催している。利用状況・活動状況の報告を行い、意見交換では毎回、率直な意見が出席者からあり、熱く盛り上がります。防災問題、今後の活動、認知症の方に対する対応など、貴重なご意見をいただいている。事業所から管理者・計画作成担当者他、職員も順番で参加し、スタッフ全員に会議の報告と周知を徹底し、サービス向上に活かしている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議は、利用者と家族、地域住民、民生委員、市職員の参加を得て2か月に1回開催している。会議では利用者の状況や活動報告を行なった後、参加者と活発な意見交換をしている。話し合いの結果、住民参加で避難訓練が実施されたり、地域の情報を得て、稚児行列を観覧するなど利用者に喜ばれている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 市担当者の運営推進会参加を得、事業所の方針や現場の実情を伝えたり、市職員から課題解決のための情報を示唆していただいている。介護保険関係で理解困難な場合は市の窓口を訪問し、話し合いをするなど、普段から連絡・相談がしやすい関係を築いている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議に市職員の参加があり、事業所の状況を理解してもらっている。わからないことがあれば、市役所が近くにあるので向いて行って指導を受けることも多く、信頼関係を築いている。また、地域包括支援センターの協力を得て認知症サポーター養成講座を受講して、センターが実施している「見守りネットワーク」事業に協力している。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 職員一同が「身体拘束は行わない」と共通認識を持ち、定期的ユニット会議で学習し、課題があれば話し合いをして、身体拘束をしないケアに努めている。三階建ての建物内は利用者がエレベーターを使って自由に移動している。施設が市街の中心地に有り交通が頻繁な交差点の角地のため、一步屋外に出ると危険がある。徘徊の利用者も入居しているので安全を優先し、やむを得ず施錠しているが、利用者が希望すれば必ず職員同行で外出している。</p> <p>(外部評価) 身体拘束をしないケアを実践している。病院や他の施設から転居してきた利用者家族から4点柵の利用を申し出されたことがあるが、拘束にあたることを説明して理解してもらい使用しなかった。部屋は衝撃を吸収するクッションフロアになっている。職員は年1回研修を受け話し合いながら、言葉の拘束についても「とろとろに優しく」をスローガンに優しい言葉使いを心がけている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 定期的ユニット会議で「虐待防止」について学習している。特に介護現場では身体的虐待だけでなく、叱る・無視・高圧的態度など心理的虐待の防止に重点を置いて、職員の自覚を促し、「とろとろに優しく」を事業所のスローガンとしている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 管理者・リーダーは介護支援専門員の研修等に参加し、権利擁護について学んでいる。現在のところ、制度を利用する対象者はいないが、今後、職員が研修等に参加の機会を設け、権利擁護や成年後見制度を学び、理解し、必要な時は利用者、ご家族を支援できるようにする。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 利用者やご家族に対し、契約内容の詳細を説明し、不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い、理解・納得を得られた上で契約を行っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 日々の生活の中で、利用者からの要望が、毎朝のミーティングで管理者及び職員に報告され直ちに話し合いをし、ケアに反映している。ご家族が来所時はホールに一緒に座り、一緒にお茶を飲み、普段の生活を見ていただき、ご意見ご要望等を伺い、ご家族のお気持ちを職員に周知させ、運営に活かしている。遠方のご家族には、電話連絡にて利用者の様子を伝え、つどい便りを全家族に送付している。 (外部評価) 家族が交代で運営推進会議に出席して、意見交換をしている。また、クリスマス会などの行事と合わせて家族会を開催して交流し、意見を出してもらう機会を作っている。2か月に1回事業所だよりを発行して全ての家族に送付し、利用者の日常の暮らしぶりを知らせている。遠方の家族には頻りに電話連絡をして状態を伝えている。	事業所は様々な機会を通して家族の意見を聞く努力をしてきたが、管理者はまだ十分ではないと感じている。家族会で家族が遠慮なく意見が述べられるような会運営の工夫や、職員で話し合っただ自のアンケート調査を実施するなど、さらに踏み込んだ取組みに期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月のユニット会議で、職員ひとりひとりが意見を述べる機会がある。管理者と職員は普段からケアの方向性がぶれないように話し合い、職員が代表者や管理者に意見や要望を伝えやすい環境とし、職員の声を運営に活かしてゆく様に努めている。 (外部評価) 朝夕の申し送り時に職員から意見や提案があると、ショートミーティングを行ってケアに反映させている。出された意見は申し送り簿に記載して情報を共有している。事業所は人材育成に力を入れており、研修を奨励して受講料や旅費を支給するほか、資格取得に必要な費用の助成制度を設けており、職員の意欲向上につながっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 個々の勤務状態を把握し、面談を行い、話しやすい状況を作っている。実績に応じて、研修参加の機会を設け、キャリアアップ、意欲の向上に努めている。希望休、生活状況に合わせた勤務シフトを取り入れ、安心して、持続して勤めることができ、やりがいのある職場作りに努力している。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 職員ひとりひとりのケアの力量と性格を把握し、働きながら、指導を受け、力量を向上出来る様にユニットのローテーションを組んでいる。新人にはマンツーマンの指導者を付け仕事の流れを理解させている。所内での勉強会を奨励し、外部研修の積極的参加を促している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 今治市グループホーム交流会に参加し、研修会や勉強会等で同業者と情報交換し、サービスの質の向上につなげている。また相互訪問し、他事業所のいい点を取り入れ、また、自事業所の長所、短所を客観的に知ることが出来、サービスが広がるよい機会となった。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 初期段階でご家族より、利用者の今までの歩み、不安、要望等をよく聞き取り、職員は、ご本人の趣味嗜好や関心あるお話をするなど、多く関わりを持つようにしている。それにより、不安の軽減、安心感をもっていただくと同時に利用者が当ホームに入居して、どのような気持ちでいるのか理解し、思いやるように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入所に至るまでのご家族の思いは様々です。ご本人が納得しないまま、入所させた不安感、介護からの開放感など、色々な感情をもたれているご家族を受け止め、今までの歩みを理解し、ご家族の気持ちに寄り添います。当ホームに入居させてよかったと安心していただけるように、ご家族との関係作りに努めています。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人・家族が必要としている支援を見極め、個々にあったサービスを提供してゆきたい。特に医療法人であることで、医学的管理も含め、当ホームを選ばれ、入居される方が多い。医学的安定が精神的安定につながるの、希望・同意される入居者には入居時、連携病院に現在の状況、病歴、服薬状況等を報告し、入居中の医療連携支援を行っている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 本人ができること・できないことを職員全体が周知、理解し、日々の生活でできることをしていただき、できたことに職員は感動し、感謝の気持ちを伝えている。やる気がなかった方が、できるようになった時は、共に喜び、支え合いの関係を維持する様に努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族に2ヶ月毎のつどい便りを送付して、近況をお伝えしている。面会に来られた時は、ご本人ご家族と一緒に話して、ご家族の事情や要望等を職員全体が周知するようにしている。ご本人ご家族の今までの入居時に歩みを理解し、話し合いながら支援を進めてゆきたい。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 馴染みの面会者が来られたら、職員も利用者と一緒に歓迎し、ゆっくりくつろいでもらっている。ある職員を従姉妹(県外在住)と思い込んで、毎日話しかけてくるが、職員は従姉妹になりきって、対応している。ある利用者は、今は息子の代になっている馴染みの会社に行きたくて落ち着きがなくなる。ドライブがてら会社に連れて行き、息子と会ったら安心してホームに帰っている。 (外部評価) 入居時に、馴染みの人や場所について利用者や家族から情報を収集している。来訪した家族から戦争中の学童疎開やシベリア抑留体験を聞くこともある。知り得た情報をもとに、個別に外出支援を行い馴染みの場所を訪ね、利用者の安心や喜びにつなげている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 共有スペースで食事をし、お茶を飲み、テレビを見たり、お楽しみ会をしている。利用者は朝起きたら、ホールで過ごすのを楽しみにして、進んで居室から出て来ている。時々テーブルの席替えをして、利用者同士が楽しく交流できる様に配慮している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 26年4月に開設して、退所して自宅に帰るとか、転所する方はまだいませんが、必要に応じて相談支援してゆきたい。最後まで看取って、終了した事例では、安らかに逝ったことでご家族から満足と感謝の言葉をいただきました。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) ある利用者は、言葉が不明瞭なため、気持ちを正確に伝えられなくて、大声を上げたり、興奮状態になることがある。本当は、他の利用者を介助していると、自分の方に注意を向きたい。トイレというと、自分の所に来てくれるなど、かまってもらいたい気持ちがある。それを理解して、いつもあなたのことを見ているよと言う優しい気持ちで接すると、穏やかな表情になる。一人の職員が知り得たり、感じた利用者の思いを職員全体が共有し、その思いに寄り添って対応してい	
			(外部評価) 時にはさりげなくそばに座って話を聴くように心掛け、なるべく希望や意向を聞き取るよう努めている。拒否的、威圧的態度をとる利用者もその心の底に流れるものを推察し、気持ちを汲み取るよう努めている。ミーティング時にみんなで気づいたことを出し合い、多面的に利用者を理解できるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時に生活歴をお伺いし、今までの生活状況をご家族、親戚、また仲良しのご近所さんが来られた時にお聞きする等、情報把握に努め、安心して暮らせる生活環境作りに役立っている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 3階ユニットの場合は要介護4・5の利用者が殆どで、生活全般に亘って全介助の利用者が多い。その中でお一人おひとりの生活リズムを理解し、状態に応じ、できる限りホールに出て他の利用者とは交流して心身の刺激により、認知症の進行を抑制し、ADLの向上に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 毎月のミーティングに事例検討を行い、気づきの伝達、状況の共有を行っている。また毎朝のショートミーティングで、必要に応じ事例を挙げご本人、ご家族の意向を職員全体が把握し、介護計画に反映する様にしている。少なくとも3ヶ月に1度は個別のモニタリングを行っている。 (外部評価) 計画作成担当者が利用者や家族の意向を確認した上で介護計画を作成している。毎月事例検討を行い、介護計画が現状に即したものになっているか検討をしている。また、3か月に1回モニタリングを行い、介護計画の見直しを行っている。計画書は家族が面会に訪れた際に説明をして交付し、遠方に住む家族には電話で説明して郵送している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 生活記録には日常生活の様子が分かる様に、利用者の話し言葉を入れ具体的記録をしている。個人記録表は1日のバイタル、食事、清潔、排せつ、服薬等すべてが把握できるようにしている。全員が出勤時必ず読むことになっている申し送りノートには、介護及び業務上の気づき、提案、決定事項等、伝達すべき情報を記録し、職員が周知し実践に反映している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 「今」「この時」に寄り添うとの理念のもと、生活全般のニーズに応じる様にしている。連携病院受診・検査に同行、自宅や馴染みの場所に行きたい希望に応じたり、福祉用具の購入の相談、地域の美容院による訪問カットや職員が爪マニキュアを施して、おしゃれ心を刺激したりしている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域ボランティア活動を受け入れ、地域の人達からいただいたチューリップの球根やさつまいも苗と一緒に植え、利用者が収穫したさつまいもやゆずを運営推進会議の地区住民代表者におすそ分けし、味わっていただいた。防災訓練では地区住民も参加していただき、利用者と一緒に避難の方法など話し合った。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 入居時に医療に対するご意向を伺って要望に添って対応して いる。利用者と家族の同意のもと、医療連携病院に毎朝利用 者の具体的な体調をFAXにて報告。主治医が利用者の体調に 応じて、ほぼ毎日往診している。歯科は訪問診療も利用して いる。他科受診の必要があるときは家族が付き添っている。	
			(外部評価) ほとんどの利用者が協力医をかかりつけ医としている。職員 は、毎朝利用者の状態を協力医にFAXして状態を伝えてい る。協力医は毎日来訪するため、利用者や家族のみでなく、 職員にとっても安心である。また、月1回、歯科医による訪 問診療を受けることができる。他科受診については家族に付 き添いを依頼し、情報を共有しながら治療を継続している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 日常生活で、利用者の細やかな異常に介護者が気づいた時 は、看護職員または管理者（看護師）に報告し、主治医や家 族と相談しながら対応している。介護と医療の連携体制が構 築されており、連携病院から主治医の指示のもと、看護師が 処置の指導やチェックにも来ている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院にした際は、管理者が入院時情報提供書を病院に提出し ている。入院中は医療関係者、ご家族と相談・連絡を取り合 い、退院時は医療機関よりサマリーをいただき、退院後の介 護の指針にしている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入居時に本人と家族に重度化した場合における対応、医療連 携体制を実施していること、本人、家族の意向に添うことを 説明し、同意を得ている。当事業所は医師の説明を受けた本 人、家族からの希望に添って看取り介護を行っている。職員 全体に所内で看取りに関する、研修を繰り返し行い、看護師 による終末期ケアの指導を行っている。グループホーム交流 会で、他の事業所の看取りの事例も勉強し、どのような事例 にも対応できるよう医療との連携を心がけている。	
			(外部評価) 看取り指針を作成し、家族の希望に応じて看取りを行う方針 である。開設よりすでに3名の利用者の看取りを行ってい る。職員として配置されている看護師4名と協力医の24時 間緊急時医療体制があり、利用者や家族の安心に繋がってい る。現在終末期ケアを行っている利用者は毎日家族が訪れ、 職員と協力して手をつくした介護をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 利用者の急変や事故発生時に備え、定期的ミーティングで学習し、不安や疑問など発表し意見交換をしている。また当事業所の「緊急時対応手順」を作成し、スタッフルームに掲示して、職員に周知徹底している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回防災訓練を実施している。防災チェックリストを作成し職員が日頃から防災意識を持ち、いざと言うとき対処できるようにチェックリストに基づき体験し、備蓄品を確認し、気づきや意見を出し合っている。4月・9月の防災訓練には地域住民の方々も参加し、利用者を避難させる方法や地域の人たちの避難場所としての受け入れの用意もあることも確認した。次回4月の防災訓練は夜間想定での訓練を行うことを、地域との話し合いで決めた。 (外部評価) 事業所の建物は、災害発生時に非常扉のロックが自動解除される構造になっている。職員全員が防災チェックリストを活用して避難の手順や備品の保管場所、防災設備の確認をしている。年2回小規模多機能型事業所と合同で避難訓練を実施しており、近隣住民が参加して訓練を行うことができた。事業所を一時避難所として活用してもらうよう申し出ており、備蓄食料も余分に用意している。	防災チェックリストの作成と実施、備蓄品の整備と管理、地域住民参加で避難訓練を実施する等、短期間で優れた実践がされていることは評価できる。さらに充実した災害対策が構築できるよう、避難訓練に消防署立ち会いを求めたり、夜間想定での訓練の実施、緊急連絡網の試験的实施、災害時地域住民と具体的な協力内容について話し合う等の取組みに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 居室はすべて個室であり、入浴も個人浴でプライバシーを損ねない様に対応している。また明るい笑顔と利用者にあったトーンの声かけを行い、お一人おひとりを尊重して接する様に心がけている。 (外部評価) 「とどろくに優しく」をスローガンに一人ひとりの人格を尊重した声かけを行うよう努めている。家族が面会に訪れた際は居室でゆっくり話ができるよう椅子等の準備をしている。入浴は一人ずつ入り、同性介助を希望する利用者には勤務を調整して希望に応じている。トイレにはコールが取り付けられており、排泄後知らせてもらうよう配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 食べものや飲み物には選択の幅を持たせ、おやつは数種類から好みの者をとってもらい、飲み物はご希望を聞いて提供している。レクリエーション、作業、外出など強制しないで、自己決定できるように働きかけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) タイムスケジュールを重視しないで、ご利用者に添って起床、朝食、入浴時間等を合わせ、日頃から業務中心でなく、利用者中心の生活を支援する様に心がけている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 職員が利用者の服装やおしゃれに関心を持ち、服装が変わったり、散髪などしてヘアスタイルが変わったりすると、その都度感想を述べることで、利用者の身だしなみの意識が高まり、気軽に職員に服装やおしゃれの相談をしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) オープンキッチンとなっているため、利用者の目の前で調理している。利用者は気軽に野菜切り、皮むきなど手伝ってくれたり、味見をしてもらったりしている。またテーブルに鉄板を出して、焼きそば、お好み焼き、バーベキューなど利用者が参加して調理する食事が好評です。おしゃれな箸置き、食器、コーヒーカップなどで優雅に食事を楽しむ雰囲気作りも心がけている。	
			(外部評価) 栄養士が献立を立て、管理者と理事長が確認して、適宜変更している。各ユニットで調理をしており、豆の皮むき等野菜の下ごしらえを利用者と一緒に行うこともある。誕生日にはショートケーキでお祝いしている。普通食が食べられない利用者には、料理を見てもらった後で食事形態を変えるようにして食事を楽しんでもらうよう配慮している。また、食事時は車いすから椅子に移って食べられるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 主に栄養士が栄養バランスを考えた献立をたて、職員が食事の摂取量は毎食チェック、記録している。水分摂取は三回の食事と10:00、15:00、入浴後、運動後、外出から帰った時、夜間は居室にお茶を用意しておくなど、一人ひとりの摂取状況に配慮している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 食事前には職員の指導の下で事前にお茶を1口飲み、口腔体操を行って、唾液の分泌を促している。利用者の習慣となっているが、毎食後、個別に口腔清潔に誘導し、必要に応じたケアを行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価) 生活記録に排泄チェック表を記載し排せつ状態を把握している。原則としてトイレで排泄する様に誘導している。車いすの利用者は本人の希望により夜間はポータブルトイレを使用することもある。声かけしてトイレ誘導しているが、尿意から排せつまで間に合わないこともあり、パット、リハパンを使うことがある。良眠の妨げとなる様な方、または、ご家族ご本人の要望で夜間のみオムツ使用の方が3名いる。</p> <p>(外部評価) 各ユニット2か所にトイレがある。いずれも車いす対応になっており、跳ね上げ式手摺や前方ボードを設置して安全に排泄ができる設備になっている。利用者一人ひとりの排泄パターンを把握して声かけをし、トイレで排泄ができるよう支援している。排便後の紙パンツは新聞紙に包みその都度清潔に処理されている。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価) 朝食には毎回牛乳またはヨーグルトを飲んでいただき、午前中に体操をして体を動かすことにより自然排便を促している。個々の排便状態を観察、記録し、便秘が続く場合は連携の主治医と相談し、緩下剤服用することもあるが、職員が状態観察して服用支援をしている。利用者全員の排便状態を朝夕の申し送り、報告し、全職員が把握している。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価) 毎日入浴の準備をしている。基本的に週2回のスケジュールを組んでいるが、ご利用者の気分により、曜日を変更したり、回数を増やすなど柔軟に対応している。秋冬には、ご利用者と一緒収穫したゆずでゆず湯を楽しんでいただいている。</p> <p>(外部評価) 和式浴槽はスライドできるようになっており、左右に移動可能な構造になっている。利用者の身体状況にあわせて位置を変え、福祉用具と合わせて安全に浴槽に入れるよう工夫されている。一般浴槽での入浴が困難な利用者は、小規模多機能型事業所の特別浴槽で入浴することができる。また、現在終末期ケアを行っている利用者はリクライニング車いすで浴室に移動し、湯船で足浴を行って喜ばれている。週2回入浴を基本とし、入浴の苦手な利用者には声かけを工夫したり、時間や日を変えて入浴できるよう支援している。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価) 朝ゆっくり寝るのが習慣の方には無理に起こさないで、その方のペースに合わせている。昼寝の習慣の方、体調不良時など居室でゆっくり休める様に支援している。就寝時間も利用者の生活習慣にできるだけ合わせる様に心がけている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬は看護師が管理し、1日分の投薬箱に朝、昼、夕、就寝前に仕分けし、職員が服薬支援を行っている。薬の目的、副作用、用法、変更等は申し送り簿にて確認し、服薬状況を記録している。状態の経過や変化は毎朝、連携主治医にFAXで報告して、医療的対応を受けている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 利用者の生活歴により違っている利用者の興味を職員が理解し、花壇作り、畑作り、調理、踊り、歌など個々の利用者の関心事や趣味を楽しめる様に支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 全員で季節のお花見や紅葉狩りに出かけている。日常では少人数で散歩、食材の買い物に同行、帰宅願望の利用者と育った家を見に行く。昔働いていた会社をみたいと言う利用者と会社を見に行く。など個々に対応している。またご家族と一緒に外出、外食した時は楽しくて、満足気な表情で帰って来られる。 (外部評価) 近くに四国霊場があり、数人で散歩に出掛けたり、季節毎の花見を楽しむため鈍川温泉や糸山公園へドライブに出かけている。遠出をする際は必ず母体病院に行先を連絡して緊急事態に備えている。また、利用者が経営していた会社や職場に個別に出かけたこともある。今後、少人数で外食に行くことを検討している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 入所時面談で、物盗られ妄想、財布がないと騒ぐ、預金通帳に異常に執着があり銀行を巻き込む等々のご家族からのお話もあり、個人的にはお金を所持していません。お買い物ツアーでは、施設が立て替え、ご本人が支払いをして、買い物気分を実感していただいている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 親族や知人と電話で話したいときは、施設の携帯電話で居室内で通話する様に支援している。また希望により手紙が出せるような支援もしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 3階建ての施設の中を利用者はエレベーターを使って、自由に移動できる。共用の空間は空調、温度管理、採光に考慮し、オープンキッチンでは調理の音や匂いを感じ参加もできる。居間の道路側は透明ガラス張り、中からは交差点、街路樹、人や車の動きを見ることができ、外からは地域の人たちに七夕飾りやクリスマスツリーを楽しんでいただいている。 (外部評価) 建物内は掃除が行き届き、清潔である。感染症対策として毎日消毒を行っている。リビングはオープンキッチンと食卓やソファがあり、利用者が集う場所となっている。窓は足元までガラス張りになっているため、日差しがふんだんに差し込んで明るく、通りの景色を望むことができる。庭に菜園があり、チューリップの球根が植えられている。季節毎にさつまいもや夏野菜を植えて収穫したり、めだかや蝶を育てるのも利用者の楽しみになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) ソファを自由に移動して、寝転がることもできる。気の合った利用者同士が食堂以外でも、テーブルを囲めるように居間にも置いている。共用空間の全ての家具は状況に応じて、気軽に移動できる様にしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居室は日照、採光、換気等及び防災に配慮している。ベッド、タンス、テーブル、椅子、ナースコール、洗面台を備えている。ご本人の好みの家具や置物を持ち込み自由となっている。但し、地震等防災のため、背の高い家具の持ち込みは遠慮してもらっている。 (外部評価) 居室は広く、洗面台、エアコン、電動ベッド、チェスト、テーブルと椅子が備え付けられ寝具も提供されている。利用者はそれぞれテレビや整理ダンス等を持ち込んで思い思いに配置している。全室が南側道路に面しており、明るく外の景観を楽しむことができる。窓辺に家族写真をたくさん飾っている部屋もある。居室入り口に暖簾をかけたたり折鶴等を飾って、部屋を間違えないよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 事業所全体を日照、通風に配慮し、バリアフリー構造にし、利用者の安全に考慮している。可能な限り自立して移動できるように廊下、トイレ、浴室等に手すりを設置している。手洗い設備、手指消毒液等感染予防に必要な設備を設けている。	